

ライフインテリジェンスとオフィス情報システム論文特集の発行にあたって

ライフインテリジェンスとオフィス情報システム論文特集編集委員会

委員長 山田 智広



ライフインテリジェンスとオフィス情報システム (LOIS) 研究会では、本研究会で発表された最新の研究成果を集積、発信することにより、同分野の更なる発展に貢献することを目的として、情報・システムソサイエティ和文論文誌にてライフインテリジェンスとオフィス情報システム論文特集 (2018年10月号) を企画することとした。

本研究会は、1986年にオフィスシステム研究会として発足し、2009年にはサイバースペースやリアルワールドでのライフログの収集・活用の研究が国内外で活発となってきたことを受け、現在の名称に変更した。同年は、ライフログ研究の牽引者の一人である当時 Microsoft Research の Gordon Bell らが、自らのあらゆるライフログ収集の取り組みを書籍としてまとめている [1]。記述されている内容は、人生のすべてを記録、蓄積、再現するという当時としては野心的かつ技術的課題も多い取り組みであったが、Gordon Bell が本の中で2020年には技術的に可能となると提言したように、近年ではセンシングデバイスの普及や分析に必要なコンピュータの処理能力も向上し、IoTやAIといった分野での研究開発も更に活発となることで、現実味を帯びてきている。また、本研究会が積極的に取り組んできている収集データの分析・活用・相互利用に向けたシステム化、セキュリティ分野に関する研究や、働き方改革も視野に入れたオフィス業務支援や2020年のオリンピック・パラリンピックを意識した応用的な研究開発や実証実験も活発に行われている。

こうした背景を踏まえ、本研究会専門委員会関連の論文特集としては、2002年7月のオフィスシステム論文小特集 (9編)、2006年12月の次世代ワークスタイル論

文特集 (6編)、2012年4月ライフログ処理技術とその活用システム論文特集 (13編)、2014年12月のライフインテリジェンスとオフィス情報システムレター特集 (15編)、2016年10月のライフインテリジェンスとオフィス情報システム論文特集 (9編) に引き続き6回目の和文特集の企画であり、今後も継続的に特集号を企画していきたい。

今回の特集に関しては16編の投稿があり、このうち8編が採録判定された。その内訳は、

- ・ライフログ 論文2編
- ・オフィスアプリケーション・オフィス支援 論文2編
- ・セキュリティ 論文2編、レター論文2編

であり、システム開発論文は論文1編であった。掲載を見送らせて頂いた8編には書き方を工夫したり、説明が不明確なところを加筆・修正すれば採録可能な興味深いものも数多くあった。本研究会は、LOIS研究会に改名して10年目を迎えており、定期的開催する様々な研究会との共催、協力による研究会の開催や特集を通じた優秀な論文の国内外への発信に更に力を入れていきたい。

本特集の編集にあたり短期間に企画・論文募集・採否判定等の作業が計画通り進められたのは、福田洋治・白石善明両編集幹事、編集委員及び査読委員の御尽力によるところが大きく、また論文を投稿頂いた著者の方々及び本企画を支援頂いた和文論文誌D編集委員会の関係各位に深く感謝する。

[1] Total Recall : How the E-Memory Revolution will Change Everything (2009, ISBN 978-0-525-95134-6)

やま だ とひろ
 山田 智広 (正員) 1990新潟大・工・電子工学科卒. 1992年
 同学大学院修士課程修了. 同年日本電信電話株式会社に入社.
 以来, デジタルコンテンツ配信, ライフログ, アプライアンス,
 ロボティクス技術に関する研究開発に従事. 2007年MBA取得.
 2015年より, NTTサービスエボリューション研究所ネットワー
 クロボット&ガジェットプロジェクトのプロジェクトマネー
 ジャー. iRooBOネットワークフォーラム理事. 本会LOIS研究会
 委員長, 電子情報通信学会, 情報処理学会, IEEE, ACM各会員.

ライフインテリジェンスとオフィス情報システム論文特集編集委員会

委員 長	山 田 智 広
副委員 長	西 宏 之
幹 事	福 田 洋 治 ・ 白 石 善 明
委 員	相 澤 清 晴 ・ 伊 沢 亮 一 ・ 一 藤 裕 ・ 岡 本 学
	小 館 亮 之 ・ 関 良 明 ・ 谷 本 茂 明 ・ 檜 垣 泰 彦
	福 島 和 英 ・ 山 元 規 靖